

2019年度三戸町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

三戸町は、三方を山に囲まれた盆地特有の気候で寒暖の差が激しく、農地の多くは山間地域に点在しているため、多種多様な作物が小規模に生産されてきた。

農業経営は、水稻に果樹・野菜（三戸・留崎地区）、葉たばこ・畜産・野菜（猿辺地区）、トマト・葉たばこ・畜産（斗川地区）と複合経営が主体となる。

水田農業においては、水稻からの転換作物として夏秋トマト・花き・ネギなどの野菜畑作振興が図られたが、依然として農業経営において水稻を重要視する農業者は多い。また、1戸当たりの水稻作付面積は約60aで、飯米農家の割合が増加傾向にあり、出荷農家と飯米農家の割合は4：6となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

- ①適地適品種を作付けする観点から、県の奨励品種(つがるロマン・まっしぐら)を中心とした作付の実施。
- ②安全・安心な米に関する消費者の関心の高まりに的確に対応するため、堆肥等の有機物資源を利用した土作りや、減農薬などによる青森クリーンライス等の特別栽培を推進する。また、農薬・肥料の使用に関しては、生産履歴の記帳を徹底するとともに、種子更新100%を目指す。
- ③酒米（華吹雪）等、特色ある米づくりの推進。
- ④品質のばらつきが少なく良食味・高品質米の安定的な生産ができるよう、食味・品質の向上を図るための営農指導體制を強化していく。
- ⑤作業の受委託による土地利用集積・低コスト生産の推進。
- ⑥農産物加工・販売団体と協力し、米粉やもち米を利用した加工品を販売。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、県設定の産地交付金の活用により多収品種の導入推進を図るとともに、地元の畜産農家との結びつきを強化し生産の拡大を図る。

また、地域設定の産地交付金により飼料用米生産ほ場のわら利用の耕畜連携の取組を支援し、実需者である畜産農家との連携を執りながら作付面積の拡大を図る。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

現在、取組はないが需要に応じた米生産のため、農業者への周知を行い、取組の維持・拡大を目指す。

エ WCS用水稲

取組なし

オ 加工用米

複数年契約が終了し作付面積の減少がみられるが、引き続き J A 等出荷業者と連携し実需者との結びつき強化し、安定した生産を目指す。

カ 備蓄米

現在、取組はないが需要に応じた米生産のため、農業者への周知を行い、取組の維持・拡大を目指す。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、取組なし

大豆については、比較的条件の悪いほ場に作付けされているため、関係機関と連携し、排水対策や適切な肥培管理等を徹底する。

また、地域における高齢化率が進行する中、荒廃農地等の発生、増加を防止するため、地域の実需者との契約に基づいた作付面積が減少しない様に担い手に農地集積・集約を図り作付の維持を図る。

飼料作物については、飼料資材費の高騰により畜産農家の負担が高くなっているなか、作付面積の維持・拡大を図り、畜産農家と耕種農家とが結びついた生産をすることで粗飼料自給率の向上を図る。

(4) そば、なたね

そばは、比較的条件の悪いほ場に作付けされているため、県設定の産地交付金の活用を行いながら関係機関と連携し、排水対策や適切な肥培管理等を徹底する。

なたねについては、取組なし

(5) 高収益作物（園芸作物等）

トマト、ピーマン、ねぎ、にんにく、については高収益作物であることから、地域設定の産地交付金の活用と J A 等の営農指導に基づく栽培を徹底し、品質の向上と安定生産を図り、水稻との複合経営を進め、町の奨励作物とし、作付面積の拡大を図る。

また、その他野菜、花き、花木についても地域設定の産地交付金の活用し、振興を図る。

(6) 畑地化の推進

取組なし

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	495.0	477.0	477.0
飼料用米	45.0	60.0	65.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	15.9	40.0	41.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	5.8	5.4	5.8
飼料作物	35.4	36.5	37.0
そば	1.8	2.0	2.1
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	108.1	121.5	129.4
・葉たばこ	75.7	83.0	86.0
・トマト	7.9	8.4	8.7
・ピーマン	2.8	3.3	3.5
・ねぎ	2.9	3.7	3.9
・にんにく	12.2	12.5	13.0
・かぼちゃ	1.1	1.9	2.3
・キャベツ	0.4	0.4	0.4
・きゅうり	0.6	0.6	0.7
・なす	0.4	0.4	0.5
・はくさい	0.4	1.0	1.3
・だいこん	0.2	0.5	0.7
・とうもろこし	0.6	0.8	1.0
・さやえんどう	0.3	0.5	0.6
・つくねいも	0.6	1.0	1.2
・いんげん	0.4	0.5	0.6
・えごま	1.5	1.5	1.3
・メロン	0.1	0.1	0.1
・シソ	0.0	0.3	0.5
・キク	0.9	1.1	1.2
・けいおう桜	0.2	0.2	0.3
・小豆	0.4	1.5	1.6

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	・葉たばこ	葉たばこ振興助成	作付面積	(2018年度) 75.7ha	(2020年度) 86.0ha
2	・トマト	トマト振興助成	作付面積	(2018年度) 7.9ha	(2020年度) 8.7ha
3	・ピーマン ・ねぎ ・にんにく	ピーマン、ねぎ、 にんにく振興助成	作付面積	(2018年度) 17.9ha	(2020年度) 20.4ha
4	・かぼちゃ ・キャベツ ・きゅうり ・なす ・はくさい ・だいこん ・とうもろこし ・さやえんどう ・つくねいも ・いんげん ・えごま ・メロン ・シソ ・キク ・けいおう桜	地域振興作物助成	作付面積	(2018年度) 7.7ha	(2020年度) 12.7ha
5	・大豆	大豆振興助成	作付面積 出荷販売用作付面 積割合	(2018年度) 5.8ha (2018年度) 38%	(2020年度) 5.8ha (2020年度) 57%
6	・小豆	小豆振興助成	作付面積	(2018年度) 0.4ha	(2020年度) 1.6ha
7	・飼料用米の生産 ほ場の稲わら	稲わら利用助成 (耕畜連携)	取組面積	(2018年度) 32.5ha	(2020年度) 35.7ha